平成一四年度第三五回中央教化研究会議開催要綱

一、開催趣旨　(1)　中央教化研究会議は、広く法華経教化について論議し、具体的方策を樹立することを目的に開催します。

(2)　中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委員を中心として、教区・管区での教化活動の現状を話し合い、お題目総弘通運動推進に係わる諸問題を検討します。

(3)　討議を通して、教学の現代化、教化の方策、教育問題、社会問題等に取り組み、問題の把握、解決、教材資料の作成をめざします。

(4)　論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての意識をたかめます。

二、統一テーマ　「誓願」～お題目総弘通運動を自己評価する～

三、期　　日　平成一四年九月五日（木）・六日（金）

四、会　　場　日蓮宗宗務院　東京都大田区池上一の三二の一五　電話〇三（三七五一）七一八一

五、宿　　舎　品川プリンスホテル本館

六、各教区教化資料展示（展示は受付開始時刻より行ないます）

七、開催方式　今回の中央教化研究会議は、左記の方式で運営します。

(1)　お題目総弘通運動最終年にあたり、研究的に点検・総括するため、従前の討議形式（四部会―分科会）ではなく、一泊二日を参加者自身のお題目総弘通運動自己評価のための研究形式（四分散会）で会議し、徹底討論する。

(2)　全体会議でお題目総弘通運動三期一八年についての報告を聞いたあと、ＫＪ法によって分類され

たグループによるワークショップを分散会形式でおこない、効率的に意見を集約し、全体会議でまとめる。

① 全体会議でお題目総弘通運動関係者から、一八年間の報告と本年実施のお題目総弘通運動の総括に関する中間調査アンケート結果を聞き、それをもとに全体会議終了時に、参加者自身の自己評価を三〇字程度にまとめて書いてもらう。

② 参加者自身の自己評価をパソコンで共通類型化し、参加者を共通項によって四分散会にふりわける。共通認識の近いグループに分けた四分散会で、それぞれ座長を互選し、予定調和のない討議をおこなう。討議の深まったところで、もう一度三〇字程度の参加者自身の自己評価を書いてもらう。パソコンで共通類型を集約し、より具体的に自己評価の全体像をさぐる。

③ 全体会議で四分散会の報告を聞き、全体的にまとめる。この時点で、当初、参加者自身が認識できていなかった「お題目総弘通運動の自己評価」が具体的に意識化され、七五〇以後の自身の活動、ひいては宗門運動を考える調査となり、調査をもとにした研究に取り組む教化「研究」会議としての位置づけをする。

(3) 参加者は、参考資料（『現代宗教研究』・『宗報』改訂一・二号日蓮宗宗務院発行）などをもとに準備をすすめる。

(4) 会議において討議されたものは、教区教研会議の資料や今後の教化に役立てられるようにまとめる。

(5) 各教区教研会議における成果の発表として、教区・管区並びに教化センターで作成された教箋等の教化資料を会期中展示場を設けて展示し、教化情報コーナーで宣伝する。尚、各寺院で発行のも

のは、各管区（教化センター）に委託して展示する。

八、日　程

◎第一日目　九月五日（木）

受　付　一〇時〇〇分　（五階講堂）
開　会　式　一〇時三〇分　（五階講堂）
全体会議　一一時〇〇分～一二時一五分　（五階講堂）
昼　食　一二時三〇分～一三時三〇分　（四階各分散会場）
分散会討議　一三時三〇分～一六時三〇分　（第一―第一研修室　第二―第二研修室　第三―第三研修室　第四―第四研修室）
移　動　一六時三〇分　（貸切バス）
夕　食　会　一八時三〇分～二〇時〇〇分　（品川プリンスホテル新館）

◎第二日目　九月六日（金）

朝　食　※各自朝食券ですませ、チェックアウトして移動用バスに乗車
移　動　八時三〇分　（貸切バス）
分散会討議　九時三〇分～一〇時三〇分　（四階各分散会場）
全体会議　一〇時四五分～一一時三〇分　（五階講堂）
閉会式　一一時三〇分～一一時四五分　（五階講堂）
昼　食　一一時四五分～一二時一五分　（四階各分散会場）
解　散

九、参加者　教区教研運営委員、或いは内容に関心がある教師（管区一名必ず参加のこと。一名以上参加ご希望

の場合は、宗務所からあらかじめ現宗研へご一報ください）。女性教師も積極的にご参加ください。

十、参加人数　定員一〇〇名（参加者に変更が生じた場合は、現代宗教研究所までご連絡ください。）

十一、参加費　無料。宿泊費は宗務院負担

十二、服　装　折五条・数珠・布教服

十三、持参品　○会議資料・筆記用具

○各教区管区発行の教化資料（配付の場合は一五〇部程度、展示の場合は数部ご用意ください）

十四、申込先　各管区宗務所にあります申込用紙に漏れなくご記入のうえ、宗務所経由にて、日蓮宗現代宗教研究所へお申し込み下さい。

十五、申込締切　七月三一日（水）日蓮宗現代宗教研究所必着

第三五回中央教化研究会議議運営の要旨と次第について

○会議運営の要旨

今回の中央教化研究会議は、お題目総弘通運動（以下、総弘通運動と略記）推進に関わる諸問題を検討するために、「お題目総弘通運動を自己評価する」と題して開催する。

◇「誓願」～お題目総弘通運動を自己評価する～を統一テーマに掲げた本年度、第三五回中央教研では、総弘通運動の諸問題を具体化する必要性から、ここに新たなる会議内容－「研究形式」を啓発できるワークショップ形式を用いた会議運営を行う。

ここで行うワークショップ形式の研究会議とは、ＫＪ法をベースとしたワークショップ形式を採用して、参加者全体の意見を会議に反映させ、類型的に意見を集約し評価する会議の運営法をいう。

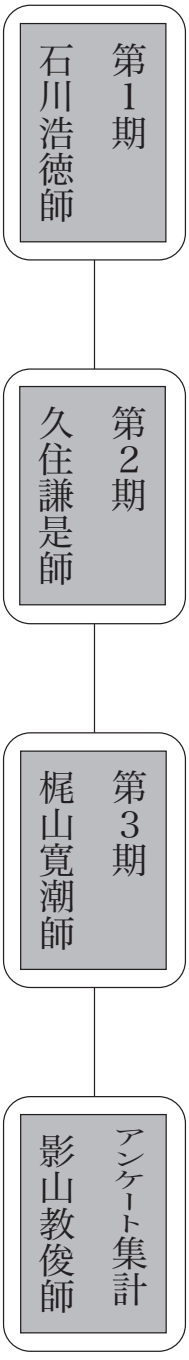
参加者全体の意見が多岐にわたる場合、その意見を会議に反映させ諸問題を具体化させるために、まずワークショップ形式の研究会議を開き、参加者全体が個々に認識している総弘通運動の諸問題を具体的に意識化することが先決である。そして、その問題を解決して、次期に迎える「御生誕八〇〇年」の宗門運動などへと反映させる必要がある。

※ＫＪ法（蓄積された情報から必要なものを取り出し、関連するものを繋ぎ合わせて整理・統合する手法の一つで、発案者・文化人類学者　川喜田二郎氏のイニシャルをとって「ＫＪ法」と呼ばれている。）

○会議の次第について

一．全体会議

お題目総弘通運動三期一八ヵ年の報告と中間アンケート集計結果（総長への答申）を聴く。《聴く》



二．自己評価カード一に、参加者自身が書き込む。《書く》

① 運動にどうかかわったか ② それに対する自己評価

③ どうしてそうなったと思うか（自己評価の理由）をそれぞれ二四文字以内に書き込む。

三．自己評価カード一による類型集約で四分散会に分かれ、自己評価の全体像を探る。

《討議》

四・分散会では、意見の近いメンバーが討論することで、諸問題をさらに具体化することができる。

一日目の途中に、自己評価カード二に三六文字以内で書き込み、集約する。《書く》

五・全体会

各分散会で集約されたものを報告し、参加者全体の意見をとりまとめる。

無意識であった自己評価が具体的に意識化される。《聴く》

個人の認識 → 分散会での認識 → 全体会での認識 → 自己評価の意識化